

玉垂



宮川の新緑（平成20年5月14日）

<http://www.okunijin.jp/>

奉祝

天皇陛下御即位二十年

向暑の折から

水無月一日に宮代神饌田の「御田植祭」を斎行いたしました。昨年同様に森町教育委員会及び地元の森町立旭が丘中学校のご指導ご協力を戴き、大勢の生徒達にお田植えの奉仕またお囃子の奉納演奏をしていただきました。初夏の蒸し暑い気候の中、一生懸命のご奉仕に心より感謝いたします。地方でさえも田植えを体験したことのある子供が少なくなってきたという現状ですが、稲作文化に触れながら、さらに環境問題・食の問題へと視点が広がることを期待しております。また、晦日には「夏越の大祓式」を斎行いたしました。「茅の輪くぐり」は参列した方々と一緒に行事を行います。さて「御鎮座一四五〇年記念事業」の最終事業であります「斎館並びに参拝者休憩所」の建設ですが、予定地になっております旧社務所の解体工事が六月初旬には終了いたしました。現在は先ず初めに倉庫の建設を実施しております。解体前は参道から宮川の風景は見えませんでした。今は新緑が望めます。新しい斎館が出来るまでの期間限定の景色です。どうぞお楽しみください。また、旧社務所前にありました参拝者休憩所も同時期に解体し、氏子地区の八雲神社に移され御本殿の覆屋として建築されます。このように神社建物の材料を再利用することはよくあることで、伊勢神宮では御遷宮の度に実施されています。

ところで、参集殿の裏手には二本の木が絡み合っているような形をしている通称「ひょうのき」があります。平成十六年に森町の天然記念物に登録された樹木です。学名「榉」（いす）で、マンサク科に属し暖地の山中に自生する常緑樹です。最近、この木にお参りされる方々がたびたび見つけられます。特に若い女性の方が多いようです。このひょうの木は当社の縁結びの御神木として長い間信仰され親しまれてきました。葉にイチジク状の穴のあいた虫こぶができて、風が吹くと「ヒョウ」と音がして、男神が女神を呼ぶ際の笛として使われたとも伝わっています。作家・白洲正子氏著の平凡社文庫『木「なまえ・かたち・たくみ」』の一説を読まれて参拝に来られた方もいるようです。縁結びは男女の間のことだけではありません。神と人、人と人、人と仕事等様々であります。皆様方におかれましては、向暑の折ご自愛下さいまして、お健やかに暮らされますことを切にお祈り申し上げます。

例祭の斎行

四月十八日（金）午前十時より例祭
が斎行されました。本年は神社本庁総
長・静岡県神社庁長・三嶋大社宮司矢
田部正巳様、崇敬奉賛会会長の鈴寛
（株）代表取締役社長鈴木覺様を始め
大勢の皆様のご参列を賜りました。

また、諸祭典・行事がそれぞれ行われ、
十七日（木）は詠歌を神前に奉告する
「献詠祭」また前日祭の斎行、十九日
（土）は氏子地区で新たに出生及び転
入された方を神前に奉告する「氏子入
り奉告祭」が斎行されました。拝殿前
の舞殿においては国指定重要無形民俗
文化財の十二段の古式舞楽の試楽が行
われました。二十日（日）午後二時の



御本殿と神輿（4月20日）



神幸祭の巫女舞奉奏（4月20日）



十二段舞楽「色香の舞」の奉奏（4月20日）



勅使役・小栗 啓氏（左）（4月20日）



氏子地区の子供会による樽みこし（4月20日）



稚児行列奉仕者一同（4月20日）

献茶祭の斎行

四月二十三日(水) 午前十時より献茶祭が斎行されました。

この献茶祭は、毎年当社の御例祭(神幸祭)に合わせて斎行されておりましたが、本年森町の茶業を生業とする人達によって「小國神社献茶会」が結成されたことをうけ、毎年四月下旬に斎行することとなりました。

当日は、森町茶商組合組合長・献茶会会長の鈴木康之様始め森町長村松藤雄様・県議会議員岩瀬護様・奥之山隆様など大勢の皆様にご参列賜り無事滞りなく斎行されました。また、祭典の中では献茶式が行われ煎茶道清風流天野智堂様よりお手前のご奉仕をいただき、祭典終了後には福德「神饌茶」発売記念式典が開催されました。

尚、献茶会では毎年四月の献茶祭はもとより毎月一日の当社月次祭に国家国民の安寧を願い、お茶を神饌(お供え物)として欠かさず献上しており、この度「神饌茶」として同様の極上茶を皆様にお分けすることとなりました。



献茶祭のお手前

び森町茶商組合加盟店にて販売致しておりますので、是非ともご賞味いただきますようご案内申し上げます。

平成二十年の花菖蒲園

本年の花菖蒲園は、昨年より数日早く開花いたしましたので五月二十四日(土)に開園し、六月二十二日(日)まで実施いたしました。ここ数年継続施工している園内の土壌改良の成果もみられ、早生・中・遅咲と一三〇種四万本の花が咲き競い、入園者の皆様にお楽しみいただきました。期間中は花菖蒲の株の販売もしており、お気に入りのお花をお求めになる方が多く見られました。六月八日の日曜日には、「花しょうぶまつり」を開催し、琴・尺八演奏、お茶会、山野草展示及び即売が催され終日賑わいました。

閉園後は、来年の開花のための植替え作業が始まりました。毎年この時期に園内の半分づつを株分けして植替えます。この地道な作業がきれいな花を咲かせるポイントです。是非明年も多くの皆様のご来園をお待ちしております。



花菖蒲の開花

宮代神饌田「御田植祭」の斎行

六月一日(日) 午前十一時より宮代地区神饌田におきまして「御田植祭」を斎行いたしました。当日は天候に恵まれ、森町教育委員会のご協力を戴き、江戸時代の文献をもとに再現した特別な神饌を祭壇にお供えし、奉耕者の筒井輝男様を始め多数の皆様方のご参列により祭典が行われました。終了後、五月男・五月女姿の森町立旭が丘中学校の生徒達が田植え唄の曲に合わせてお田植えをしました。引き続き有志の生徒によるお囃子に合わせて敬神婦人会の皆様によるお田植えをおこない、今年の豊作を祈願いたしました。



宮代神饌田「御田植祭」奉仕の森町立旭が丘中学校の生徒達

記念事業の進捗状況



旧社務所の跡地



旧休憩所の移築

夏越の大祓式齋行

六月三十日(月)午後三時より夏越の大祓式が齋行されました。

当日は、氏子内外より大勢の方がご参列され、罪やけがれを身代わりとした人形を前に神職とともにお祓いを受け、手にした切麻にて身を清めました。

また、暑い夏を健康で過ごせますようにと茅の輪くぐりの神事も行われ、くぐり終えると身も心も清められ新たな気持ちに立ち返りました。

この大祓式は、年に二回(十二月と六月の晦日)行われており、当日ご参列いただければ神職とともにお祓いをお受けいただけますので、是非ともご家族の皆様お揃いでお申し込みの上、ご参列いただきますようお願い申し上げます。尚、大祓の人形は一ヶ月前よりご祈



夏越の大祓式「茅の輪神事」



神幸所の改修工事の実施

禱をお受けいただきました方々に、または社頭にてお頒け致しております。ご希望の方は当社までお問い合わせ下さい。

小國神社社務所 大祓係
TEL 〇五三八一八九一七三〇二
FAX 〇五三八一八九一七三六七



御鎮座千四百五拾年記念事業

御奉賛者御芳名(八)

(順不同・敬称略平成十七年一月一日〜平成二十年六月三十日迄)

※記載額は奉賛金の総額となりまず

〔一宮・橘地区〕

伍拾萬圓以上

匿 名

〔園田地区〕

参拾萬圓以上

高柳 節義

参 萬 圓以上

大場 きみ

小澤 和子

香掛 光男

小澤 幸子

武蔵島 尚

谷中十一組

佐々木紀好

小澤 賢市

〔諸団体及び崇敬者〕

壹百萬圓以上

(株)鈴木長十商店

鈴木 康之

(宗)法華山王清浄講社

松崎 尚也

伍拾萬圓以上

(有)久志本

(株)ネクサスコーポレーション

高林 滋

参拾萬圓以上

(有)くらしま

倉島 正三

参 萬 圓以上

村松 康博

稲垣 まき

田中 淳夫

谷野允千帆

壹 萬 圓以上

小野 清廣

伊藤 正士

日名地りつ子

鈴木 満明

樽林 誠一

山田 涼子

本多 正彦

石原 慶一

内山 正昭



睡蓮(すいれん)



茗荷(みょうが)

第七回「写真コンテスト」のご案内



第六回写真コンテストは撮影の対象が秋の時期だけに限らずに小國神社の四季をテーマにして開催いたしました。作品には季節を彩る草花や祭事等が様々な視点で表現されており、三二五点ものご応募をいただきました。

本年の写真コンテストも昨年同様に関を設け、平成二十一年六月末日締切りにて皆様のご応募をお待ちしております。詳しくは、写真コンテスト実行委員会までお問い合わせ下さい。



宮川の紅葉

現在は、松井晴山支部長を中心に役員方により会員の拡充のための活動をしておりませんが、今後は本部を支えながら支部独自の活動を展開する運びとなります。至って和やかで会員間はもとより地域との交流が深められる集まりを目指していきます。森町のみならず、周辺地域の皆様におきましても益々のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

崇敬奉賛会 森町支部の結成

去る平成十七年、御鎮座一四五〇年を迎えるにあたり既存の「崇敬会」「奉賛会」「甲子講」を集結し、御祭神の神徳宣揚を通じ森林の保全に努め、神社の発展に寄与する「小國神社崇敬奉賛会」を設立いたしました。

これを本部といたしまして本年四月、もとより神社に対しご理解・ご尽力を賜ります森町在住の皆様によりまして「小國神社崇敬奉賛会森町支部」が天皇陛下御即位二十年を記念し結成されました。本部の規約に基づき設立をいたしましたので、基本的な目的は同じですが、更に地域の発展・地球の環境保全に努めることとなります。

指定売店のリニューアル

五月連休過ぎから、森町の鈴木長十商店により企画・経営されます指定売店の改修が実施されました。旧売店建物を利用したもので、七月初旬に「和風のカフェ」がオープンし、「おみやげ品」部門もリニューアルされました。さらに今後は、十月二十五日(土)に、「小國・ことまち横丁」としてグラウンドオープンいたしますので、今後ともよろしく願いいたします。



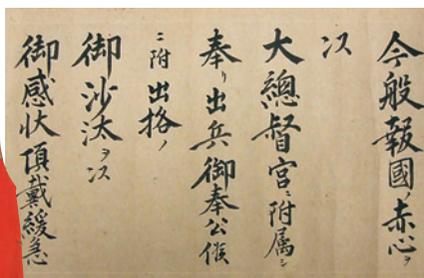
小國・ことまち横丁 (予定図)

古代の森シリーズ 23

— 遠州報國隊 —

幕末期に古学の研究等をする遠州国学が興り、古代の日本社会を再現しようとする運動が起こりました。その行動の表れとして、王政復古を実現させた東征軍の警備にあたるべく当社神職であった小國重友等も加わり「遠州報國隊」を結成しました。懇願により従軍を許され江戸入城を果たし、有栖川宮熾仁親王の警衛につくなど明治新政府設立に貢献をいたしました。

明治元年に解散となりましたが、当時の「報國隊姓名録」や「御感状」、また陣羽織等が当社に保管されています。



報國隊姓名録



陣羽織

まつり歳時記

七月〜十一月

七月 文月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十三日 甲子祭 (午前九時)
- 三十日 境内地譲渡記念祭 (午前八時)
- 三十一日 愛宕神社例祭 (午前九時)

八月 葉月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)

九月 長月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十一日 甲子祭 (午前九時)
- 二十三日 秋季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
- 二十五日 御柱祭 (午前九時)
- 二十五日 敬老祭安心祭 (午前十時半)

十月 神無月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)

十一月 霜月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 明治祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 七日 山神社例祭 (午前九時)
- 十五日 七五三祝祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭・稲祭 (午前九時)
- 十九日 疫神齋 (午後二時)
- 二十日 甲子祭 (午前九時)
- 二十一日 地鎮祭 (午前九時)
- 二十三日 新嘗祭 (午前十時)
- 二十九日 紅葉祭 山芋賞味会 (午前十一時)
- 三十日 もみじまつり (午前十時)



ていしょうそう

命 名

平成二十年二月一日〜平成二十年五月三十一日

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 富田 | 織田 | 佐藤 | 鈴木 | 岡田 | 浦野 | 山田 | 太田 | 三浦 | 小栗 | 向山 | 岩本 | 近藤 | 戸塚 | 平山 |
| 竣 | 啓 | 斗 | 望 | 悠 | 楓 | 悠 | 彩 | 怜 | 志 | 怜 | 統 | 藍 | 薊 | 木村 |
| 矢 | 斗 | 斗 | 望 | 望 | 芽 | 芽 | 貴 | 奈 | 保 | 那 | 馬 | 梨 | 陽 | 透 |
| | 袋 | 袋 | 菊 | 袋 | 掛 | 磐 | 愛 | 浜 | 森 | 磐 | 磐 | 森 | 袋 | 袋 |
| | 井 | 井 | 川 | 井 | 川 | 田 | 知 | 松 | 田 | 田 | 田 | 田 | 井 | 井 |
| | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 |
| | 下 | 高 | 加 | 山 | 森 | 鈴 | 清 | 小 | 堀 | 御 | 守 | 岡 | 森 | 村 |
| | 村 | 木 | 藤 | 本 | 友 | 木 | 水 | 平 | 川 | 手 | 屋 | 本 | 下 | 松 |
| | 心 | 啓 | 遼 | 大 | 枝 | 理 | 大 | 鈴 | 蒼 | 竜 | 凛 | 清 | 拓 | 陽 |
| | 菜 | 汰 | 玖 | 生 | 菜 | 輝 | 史 | 華 | 郎 | 我 | 音 | 朗 | 太 | 早 |
| | 浜 | 袋 | 森 | 浜 | 袋 | 掛 | 磐 | 袋 | 袋 | 袋 | 袋 | 森 | 袋 | 袋 |
| | 松 | 井 | 井 | 松 | 井 | 川 | 田 | 田 | 田 | 田 | 田 | 田 | 井 | 井 |
| | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 | 市 |



本宮山からの遠望

平成二十年五月六日(火) 午前十一時、小國神社の本宮山にて「青葉祭」が斎行されました。帰路に西方面をのぞむと、天竜川をはじめ浜松駅前のアクトタワーまで見えました。

新職員紹介



- 巫女 内藤 悦子
- 巫女 小島 衣絵
- 出仕 原 崇洋

ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願いたします。

○当社では、お子様の命名を申し受けております。



西参道の石楠花(5月6日)



JOC・福田富昭常務理事参拝(6月1日)

「小國の杜・点描」



総代一同が奉納の五色絹(4月1日)



敬神婦人会によるお田植え(6月1日)



端午祭の参列者へ菖蒲の授与(5月5日)

平成二十年七月一日
 「玉垂」(たまだれ) 第二十三号
 題字揮毫 神社本廳前総長 工藤 伊豆
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七〇二二六
 住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
 電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二
 FAX 〇五三八(八九) 七三六七
 印刷 (有)デザインオフィス エム・エス・シー

平成二十年五月十四日(水) 午前十時、宮川の新緑を撮影いたしました。この撮影ポイントには秋の紅葉の時期にも良い場所として皆様方にも広く知られております。今年も十一月下旬頃よりの紅葉の色づきが楽しみです。

表紙写真について

「玉垂」二十三号をお届けいたします。春から初夏の祭行事のご報告をさせて頂きました。「御田植祭」では敬神婦人会会員とともに本年も旭が丘中学校の生徒にご奉仕を戴きました。若い力が満ちあふれ、良い伝統行事として今後も継承されていくことと思います。近頃早朝より双眼鏡をもった方々が境内によく見られます。バードウォッチングで神社に生息する野鳥の観察をされています。その方々からのお話によると、「静岡県の鳥・サンコウチョウ(三光鳥)が境内林に営巣している。」そうです。ひなが順調に成長しましたら場所を教えていただけますが、それまでは静かに見守りたいとのことです。

編集後記



手もみ新茶による接遇(4月20日)